

資料7 港区の生物多様性の現状と課題

1 港区の地域特性

- ・ 面積 20,339k m² 東京 23 区中 12 番目の大きさ。
- ・ 人口 211,269 人（平成 24 年 7 月現在） 微増傾向にある。
- ・ 「都心 3 区」と呼ばれる一つである、都会の代表的な地域。
- ・ 事業所数は 47,906 件と、東京 23 区で最多。
- ・ 企業の本社機能が集中している。
- ・ 一方、農林漁業の割合は 0.0004% と非常に低く、生活物資は区外に依存している。
- ・ 文化施設が多い。
- ・ 大使館が 74 箇所と日本一多い。
- ・ 外国人居住者が 20,432 人（平成 24 年 7 月現在）と、人口の約 1 割を占める。

社会的な地域特性からみた課題

- 都心の暮らし・経済活動で受ける生態系サービス（生態系から受ける恩恵）への配慮
- 区民・企業等の多様な主体との連携
- 外国人との情報共有、コミュニケーション
- 周辺の都市域・湾岸地域の自治体との連携

2 自然環境の特性

2.1 地形

- ・ 東側の臨海部に広がる低地と西側の台地、その間の斜面地に分けられ、変化に富んだ地形。

2.2 緑地の分布

- ・ 台地上には、赤坂御用地、青山霊園、自然教育園、有栖川宮記念公園等のゆかりある緑地、斜面地の大部分には樹林が分布する。
- ・ 都市再生による民間の大規模緑地があるほか、屋上緑地が点在する。
- ・ 樹木被覆地が多く、草地が少ない。
- ・ 区全体の緑被地面積は 451.85ha、緑被率は 21.78%（23 区で 4 位）であり、平成 18 年度よりも増加。

2.3 水系

- ・ 斜面地には多くの湧水が確認されており、自然湧出しているのは 20 箇所である。
- ・ 土地の改変や舗装地の増加による雨水の地下浸透能力低下のため、湧水地が減少している。
- ・ 主な河川は、古川のみである。
- ・ 低地の海側には多くの運河がある。
- ・ 東京湾に面しており、台場地域には人工砂浜・磯浜がある。

2.4 気象

- ・ ヒートアイランド現象が顕著。
- ・ オフィスビル等が集積する六本木駅周辺、新橋駅周辺、品川駅周辺では、ホットスポットが形成されている。
- ・ 一方、まとまった緑が多い南部、海風の影響を受ける臨海部では、夏の日中の平均気温は低い傾向にある。

2.5 生物相

- ・ 「港区生物現況調査（第 2 次）」（平成 21 年度）では 41 箇所の調査地点で 2,171 種類を確認。
- ・ このうち、環境省及び東京都レッドデータブックに記載されている種（保全すべき種）は 93 種。
- ・ また、外来生物は 204 種。このうち特定外来生物は 6 種、要注意外来生物は 49 種。
- ・ 植物では、全体種数の約 3 割を外来生物が占めており、場所によっては生態系の主要な構成要素となっている。
- ・ 多くの池では、アカミミガメ、ブルーギル、アメリカザリガニといったペット由来の外来生物が多くみられる。
- ・ 20 年前と比較すると、外来生物が増加し、鳥類の生息状況に変化がみられた。

2.6 生態的に重要な場所

- ・ 自然教育園や赤坂御用地は、面積が広く古い緑地であり、保全すべき種が多い。
- ・ このほか、青山霊園や有栖川宮記念公園で保全すべき種は多く確認されている。
- ・ 海辺では、台場地域の鳥の島、人工砂浜・磯浜で重要な種が多く確認されている。
- ・ 古川は、区内で唯一の河川であるが、現状ではコンクリート護岸で上部が高速道路に覆われているため、生物の生育生息に適さない。

生態系の現状からみた課題

- 緑地は孤立化していることから、緑地の連続性の確保
- 保全すべき種や生態的に重要な場所の保全
- 創出・再生された緑地における、質を保全するための対策
- 湧水地の減少への対応
- 古川における生物生育・生息空間としての質の向上
- ヒートアイランド現象の緩和
- 外来生物の増加への対応

●引用文献

港区みどりの実態調査（第 8 次）報告書（港区環境リサイクル支援部環境課、平成 24 年 3 月）
 港区生物現況調査（第 2 次）報告書 概要版（港区環境・街づくり支援部環境課、平成 22 年 3 月）
 港区緑と水の総合計画（港区街づくり支援部都市計画課、平成 23 年 3 月）
 港区ホームページ（<http://www.city.minato.tokyo.jp/>）
 総務省 平成 21 年経済センサス（<http://www.stat.go.jp/data/e-census/index.htm>）